

根室市立小中学校適正配置計画

平成28年2月
根室市教育委員会

はじめに

全国的に子どもの数が減少している中、根室市の児童生徒数は、昭和37年度の8,804人をピークとして減少が進み、平成27年度は2,029人とピーク時の約23.0%となっています。

そのうち、市街地地区7小中学校（北斗小・花咲小・成央小・花咲港小・光洋中・柏陵中・啓雲中）の児童生徒数は、平成27年度、小学校1,098人、中学校601人、計1,699人となっていますが、これは平成22年度に適正配置計画を策定した時点での推計値、小学校1,153人、中学校647人、計1,800人と比べ、小学校△55人、中学校△46人、計△101人と、5年間で5.6%減少が進行しています。

【参考】市街地地区7小中学校の平成22年度推計値と平成27年度実数の比較

| 区 分 | | 平成27年度 (H22 推計値) | 平成27年度 (H27.5.1 実数) | 差引 | 増減率 |
|---------------|-----|---------------------|------------------------|-------|-------|
| 市街地地区 4小学校 | 学級数 | 40学級 | 40学級 | 0学級 | 0.0% |
| | 児童数 | 1,153人 | 1,098人 | △55人 | △4.8% |
| 市街地地区 3中学校 | 学級数 | 20学級 | 20学級 | 0学級 | 0.0% |
| | 生徒数 | 647人 | 601人 | △46人 | △7.1% |
| 合 計 | 学級数 | 60学級 | 60学級 | 0学級 | 0.0% |
| | 生徒数 | 1,800人 | 1,699人 | △101人 | △5.6% |

※学級数に特別支援学級は含まない。

また、根室市においては、小中学校の校舎・屋内体育館の全体面積の67.2%が築40年以上と老朽化しており、特に市街地地区7小中学校ではその割合が79.4%と大きく、学校施設の耐震化、大規模改修等への対応など、子どもたちが安心して学ぶことができる教育環境の充実や、施設の適正な維持管理に課題が生じております。

さらに、北海道教育委員会の高等学校配置計画では、生徒の興味・関心、進路希望等の多様化、急速な中学校卒業生数の減少など、高等学校を取り巻く環境の変化に対応し、教育水準の維持向上と教育環境の充実を図るため、根室西高等学校を平成29年度に募集停止することとしており、市内の高等学校は平成31年度からは1校となる予定となっています。

こうした状況を踏まえ、根室市教育委員会では平成27年8月に市街地地区1,657世帯を対象に『市街地小中学校の適正配置に関わるアンケート調査』を実施し、その結果を勘案しながら、このたび、平成22年度策定の『根室市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針』を一部改定するとともに、ここに新たな『根室市立小中学校適正配置計画』を策定することといたしました。

第1章 適正配置計画策定の概要

1 適正配置の目的

小・中学校における児童・生徒の減少に伴う学校規模の適正化と、教育環境の向上を図ることを目的とします。

2 適正配置計画の期間

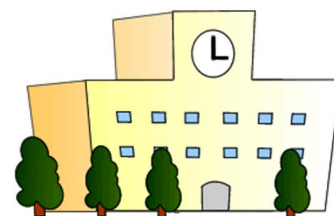
本適正配置計画の期間は、平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

3 適正配置の実施対象校

本適正配置の実施対象校は次のとおりとします。

小学校：北斗小学校・花咲小学校・成央小学校・花咲港小学校

中学校：光洋中学校・柏陵中学校・啓雲中学校



4 平成27年8月実施のアンケート結果の概要

<学校規模>

・基本方針で適正規模とする小学校「1学年あたり2～3学級」、中学校「1学年あたり3～6学級」を望む回答が、保護者世帯で小学校54.2%、中学校61.5%あること、一般世帯においても適正規模を望む声が多いこと、特に中学校でその声が多いことが明らかとなりました。

・基本方針で小規模とする「1学年1～2学級」を適切と回答した方の理由では、『きめ細かな教育を受けることができること』が多かったことから、今後とも、少人数学級の実践や学力向上等補助教員の配置による習熟度別授業の実施などを継続し、きめ細かな教育を推進していくことが求められています。

<通学>

・児童生徒に望ましい通学時間は30分以内、通学距離は概ね3kmまでという回答が多い結果となりましたが、その一方で、スクールバスやJR等を用いた場合は6km以上となっても良いという意見が多いことも明らかとなりました。

【参考】望ましいと考える市街地地区小中学校規模に関するアンケート結果

[小学校]

| 区 分 | 保護者世帯 | | 一般世帯 | |
|----------------|-------|-------|------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 1学年1～2学級（小規模） | 72人 | 37.5% | 63人 | 28.3% |
| 1学年2～3学級（標準規模） | 104人 | 54.2% | 123人 | 55.2% |
| 1学年4学級以上（大規模） | 13人 | 6.8% | 27人 | 12.1% |
| 無回答 | 3人 | 1.6% | 10人 | 4.5% |
| 計 | 192人 | | 223人 | |

[中学校]

| 区 分 | 保護者世帯 | | 一般世帯 | |
|----------------|-------|-------|------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 1学年1～2学級（小規模） | 70人 | 36.5% | 56人 | 25.1% |
| 1学年3～6学級（標準規模） | 118人 | 61.5% | 154人 | 69.1% |
| 無回答 | 4人 | 2.1% | 13人 | 5.8% |
| 計 | 192人 | | 223人 | |

【参考】望ましいと考える小中学生の通学時間に関するアンケート結果

| 区 分 | 保護者世帯 | | 一般世帯 | |
|-------|-------|-------|------|-------|
| | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 15分以内 | 44人 | 22.9% | 31人 | 13.9% |
| 30分以内 | 129人 | 67.2% | 152人 | 68.2% |
| 45分以内 | 15人 | 7.8% | 22人 | 9.9% |
| 60分以内 | 3人 | 1.6% | 5人 | 2.2% |
| 無回答 | 1人 | 0.5% | 13人 | 5.8% |
| 計 | 192人 | | 223人 | |

※割合は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%を超える場合があります。

第2章 適正配置計画の考え方

1 適正配置の将来方向

(1) 小学校

現在、北斗小学校・花咲小学校・成央小学校の3校はいずれも12学級以上で、適正規模とする1学年2～3学級の範囲内にありますが、平成32年度においては、北斗小学校と成央小学校の2校は12学級を維持するものの、花咲小学校は12学級を下回るが見込まれます。

しかし、小学校は学級担任制であり、教科担任制をとる中学校と比べて小規模化による教員定数減の影響が少ないことや、小学生には通学上の影響が大きいことなどを勘案すると、これら3校については現状維持が妥当と考えます。

また、既に3学級となっている花咲港小学校は、将来的には、養護教諭や事務職員の配置が国の配置定数上、不可能となるが見込まれることから、通学時間及び通学距離を考慮してもなお、これまでの基本方針どおり適正配置を進める必要があります。

このような状況から、市街地地区の小中学校における望ましい小学校数は3校と考えられます。

(2) 中学校

現在、光洋中学校・柏陵中学校・啓雲中学校の3校はいずれも8学級以下で、適正規模とする1学年3～6学級を下回っております。特に啓雲中学校は、平成32年度においては5学級と、一部の学年で2学級を下回りクラス替えができなくなることが見込まれます。

また、中学校は教科担任制であり、学級担任制をとる小学校と比べて小規模化による教員定数減の影響が大きく、特に教科担任をそろえることができない場合は教科指導に大きな支障が生じます。

中学校において最低限必要と考える教員数は、主要5教科各2人、その他4教科各1人の計14人と言われており、その人数を確保するためには、国の配置定数上、1校9学級が必要です。

このような状況や、平成32年度以降も生徒数の減少傾向が続くことを考慮すると、市街地地区の小中学校における望ましい学校数は1校と考えられます。

2 適正配置の実施時期

(1) 小学校

現状においても花咲港小学校は既に過小規模化しており、さらに今後とも児童数の減少が見込まれることから、できるだけ速やかに地域住民・保護者との協議を進めます。

(2) 中学校

今後の小規模化の進行により、充実した集団活動の展開や指導体制の確立、団体競技・部活動への対応、教科担任の確保等が困難となることから、できるだけ速やかに適正な規模への学校配置の見直し（3校を1校に統合）を進めます。

3 適正配置計画の進め方

適正配置計画を推進するため、学校・PTA・地域住民の方々に対し丁寧な説明を重ねるとともに、その内容をホームページ等を通じて情報提供するなど、市民の皆様のご理解をいただけるよう努めます。

【参考】児童生徒数の将来推計

| 区分 | 平成27年5月1日現在 | | | | 平成32年度推計 | | 計画後の学校規模 | | 学校数の増減 |
|-----|-------------|------|--------|------|----------|------|----------|------|--------|
| | 学校数 | 学校名 | 児童・生徒数 | 学級数 | 児童・生徒数 | 学級数 | 児童・生徒数 | 学級数 | |
| 小学校 | 4校 | 北斗小 | 349人 | 12学級 | 323人 | 12学級 | 323人 | 12学級 | ▲1校 |
| | | 花咲小 | 272人 | 12学級 | 210人 | 7学級 | 210人 | 7学級 | |
| | | 成央小 | 410人 | 13学級 | 387人 | 12学級 | 405人 | 12学級 | |
| | | 花咲港小 | 17人 | 3学級 | 18人 | 3学級 | | | |
| | | 計 | 1,048人 | 40学級 | 938人 | 34学級 | 938人 | 31学級 | |
| 中学校 | 3校 | 光洋中 | 219人 | 8学級 | 229人 | 6学級 | 524人 | 15学級 | ▲2校 |
| | | 柏陵中 | 204人 | 6学級 | 164人 | 6学級 | | | |
| | | 啓雲中 | 157人 | 6学級 | 131人 | 5学級 | | | |
| | | 計 | 580人 | 20学級 | 524人 | 17学級 | | | |

※特別支援学級の児童生徒数、学級数は含めない。網掛けされた学校は適正配置の対象校である。